

龍ノ月

jii0823

プロローグ 前編

統合世界。ここに住む人間は、魔法を使うことができる。

魔法とは、この世界の空気中に存在する、魔法因子を吸うことで発動する能力のことだ。謎の多いこの能力は、国家機密になっている事もあるとまで噂までされている。

ライア・エレクトは、今年18歳の黄色い髪的青年だ。親は、仕事の出張に行ったきり3年も帰って来ていない。親が蒸発してから、ずっとこの田舎で一人暮らしだ。

「こんな田舎から早く出たい。」

それは年頃の青年にとって、当たり前な感情だ。しかし、ライアはその願いがまさかあのような方法で願うとは思っていなかった。

統合世界の端っこの田舎に住んでいるライアの運命はゆっくりと動き始めていた。

リリリリと目覚ましがなった。時計を見ると8時だ。どうやら、目覚まし時計を1時間遅くセットしてしまっただけ。学校までは、30分くらいかかるので、朝食を取らずに学校に行っても、遅刻は免れないだろう。ライアは、どうせならと、朝食を食べてからゆっくりと学校に行くことにした。

両親が消えてから5回目の遅刻だ。一人暮らしだと、他に起こしてくれる人もいないので不便だ。そんなことを考えながら、朝食を食べていると、ズガンという大きな音が玄関の方から聞こえた。あまり、野次馬に加わるタイプではないのだが、自分の家の前ということもあり、今回は気になったので、勇気を出して玄関のドアを開いて見て・・・その光景に唖然とした。

玄関前の、田舎だから作れる広い道はボコリと凹み、クレーターのようになっている。そのクレーターの中心には、ライアと同年代と見受けられる小柄な水色の髪の少女が真っ青な鎌を両手で持ちながら、色とりどりの鎧と仮面が一つになっている鎧(仮面だろうか?)を着た五人組と対峙している。空には、カッターナイフで裂いたような裂け目ができていて、その裂け目から、アニメに出てくるような「異次元」のような虹色の世界が見える。

それを見て、ライアは、この一連の光景をつなぎ合わせることができた。

「あの裂け目から、鎧集団と水色の髪の少女は出てきたが、裂け目を作った場所は、想像以上に高い場所に作られていて、それに気づかなかった彼女等が裂け目を飛び降りた結果がこのクレーターというわけか」

ライアは現実逃避のための推理をしてから、自分で苦笑する。いくら、統合世界では魔法が使えるとしても、ありえなさすぎるのだ。特に、空に穴ができたり、クレーターができるほどの高さから落下したにも関わらず、傷一つ無く鎌を振りながら戦っている少女のような物は...

少女はやっと玄関前でぼーっとしているライアに気付くなり、

「なんで...なんで出てきてんだよ!! そんなところに居たら奴らに捕まるよ!」

と、言い放つが早いか、ライアを抱きかかえ、飛んだ。レイアは、「女子に抱きかかえられる」というシチュエーションに恥を感じながら、家から出たことを強く後悔していた。

少女は、ライアの家ベランダまで飛躍し、そこにレイアを下ろすと、

「部屋に入ったら、すぐに鍵を閉めろ、今度は絶対に家から出るんじゃー」

少女は最後まで言い終わらずに墜落した。後ろから赤い鎧の奴に殴られたのだ。あのとてつもない戦闘力を持つ少女も、ひとたまりもななかつたらしい。少女の鎌は何処かに消え失せ、少女自身も既に戦闘不能だ。

鎧集団は動けなくなった少女を担ぎ上げ、あの裂け目に帰ろうとしている。

ここぞぼーっとしていいのか?ライアは不思議な気持ちだった。ほとんど話したこともない少女なのに、鎧集団の好きなようにさせていたらとても後悔するような気がした。

「待てよ」

気がついたらそう言っていた。そして、何の望みも無くベランダから飛び降り、鎧集団の1人に殴りかかった時だ。ライアの手から黄色い閃光を放ち始め、すぐに目を開けられないほどの光に

変わった。

それが、奇跡が起こった瞬間だった。